

会 議 録

1 会議名

第4回上越市観光振興計画策定検討委員会

2 議題

(1) 計画案について（公開）

(2) 意見交換（公開）

3 開催日時

平成28年1月7日（木）午前10時30分から

4 開催場所

上越市役所4階 401会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：南賢二、渋谷聡、近田正一、吉田昌幸、鈴木六代、宮崎朋子、
田中陽子、野口裕太、平原匡

・事務局：秀澤産業観光部長

観光振興課 大坪課長、小林副課長、柳澤係長、西森主事

8 発言の内容

(1)開会

(2)議事

「(1) 計画案について」

(南委員長)

議事「(1) 計画案について」事務局より説明をお願いしたい。

(小林副課長)

議事に入る前に、本委員会の位置付けについてだが、第3回までの検討委員会における議論の結果を基に、第五次観光振興計画の原案をまとめさせていただいたので、この内容について、ご意見を賜りたい。

(柳澤係長)

※資料2「第五次観光振興計画のコンセプトと施策の体系」、資料3「第五次観光振興計画の基本方針に基づく取組・事業内容」に基づき説明

(小林副課長)

※資料1「上越市第五次観光振興計画(原案)」に基づき説明

(南委員長)

事務局からも説明があったとおり、本日の会議は、第五次観光振興計画の案について、意見交換をしていただくものである。

資料3は、観光振興計画の付属資料とするのか。

(小林副課長)

資料3の内容は資料1に落とし込んでいる。付属資料にはしない。

(吉田委員)

資料2「計画コンセプトの設定」の「住んでよし、訪れてよし」ということで、数値目標も記載されているが、この数値目標は「訪れてよし」のものとなっており、「住んでよし」の数値目標が無いように思う。「住んでよし」の部分の数値目標も出したほうがよいのではないか。

また、資料1の22ページの円グラフが、見づらいので修正してもらいたい。

(南委員長)

総合計画では将来人口の数値が出ているのではないか。

(大坪課長)

数年に1度、市民の声アンケートを行っている。そちらの数値を確認して満足度を測れると考えている。

(南委員長)

円グラフについては、22ページ以外も白黒でもわかるように対応してもらいたい。

(吉田委員)

具体的にやることとコンセプトがマッチしていないように思う。特に「住んでよし」の部分でどのような取組がなされるのか、そのような取組に基づいてコンセプトができていない。

(小林副課長)

総合計画の中には「住んでよし」の部分が網羅されている。観光振興計画は、総合計画の下支えという位置付けから作成するものである。

(平原委員)

地方創生の協議会でも、人口についての具体的な数値を出していたと思うので、「住んでよし」の数値目標の一つとして観光振興計画の中に入れられるのではないか。

(南委員長)

事務局で検討してもらいたい。

(大坪課長)

観光振興計画は、総合計画を補完する観光に特化した計画である。「住んでよし」の部分については、総合計画の中でアンケート結果等で満足度や住み続けたい理由等を分析しているので、総合計画の中で評価していく部分であると考えます。観光振興計画は観光に特化した計画としていきたいので、数値目標の記載はしないことをご理解いただきたい。

(南委員長)

資料1の「はじめに」では、市民が住み続けたいまちを実現すると同時に、外部の方たちからも訪れてみたいまちをつくっていくというのが趣旨であるということでしょうか。

(大坪課長)

当該ページについては、最終的な確認は済んでいない。基本的にこのよう

な考え方で当計画は作成し、実施していく方向性はここに書いてあるとお
りである。

(南委員長)

まちづくりの延長としての観光地づくりを目指していくということによ
いか。

(大坪課長)

そのとおりである。

(近田委員)

資料1の62ページで「事業の方向性 観光施設の環境整備」の中に「既
存の観光施設を広範囲から集客できる施設と地域住民が利用する施設に区
別し誘客ターゲットを明確にするとともに…」との記載があるが、観光とい
うのはある意味交流というのが目的でもある。地域住民と観光客を区別する
というような記載になっているが、どのような意図があるのか。

(大坪課長)

地域住民と観光客とを区別するというのではない。この記載だとその
ような表現の仕方になっているので、修正する。

満足度の高い施設で魅力を高めていきたいというのがこの趣旨である。

(南委員長)

誤解を招く表現になっているので、修正をお願いしたい。

(宮崎委員)

資料1の5ページで国の観光に対する動向についての記載があるが、上
越市としては国の動向に対してどのような取組をして、どのような結果と
なったか。例えば平成22年の「医療観光」について上越市としてどのよう
な取組をしたのか。ここ数年で、自治体によっては観光に対してどのよう
に取り組んでいく、何を売りにしていくということを一般市民にもわかりや
すく明確にしているところもある。前回でも意見を出したが、当計画で上越
市は何を売りにしていくかがわかりづらい。これまで国の施策に寄り添い

ながら様々な事業をやってきたと思うが、上越市では特にこの事業について力を入れてきたというものはないか。

また、資料2の「重点方針」で1から3は新しい取組、4、5についてはこれまで行ってきた取組でなおかつ磨き上げていくというイメージで捉えているが、どちらに比重を置いているのか。

同じく資料2「将来の空間イメージや来訪者の活動イメージ」の「レクリエーション・体験」とあり、これについては新しく出てきたものだと思うが、国の平成27年の施策で「スノーリゾート地域の活性化に向けた検討会」に絡めていくと、妙高市にはなくて上越市にあるのは何になるか。かなりコアにやっていかないと、観光客は来ないと思う。それについてはどのような方針を考えているか。

最後に資料3に取組についてのスケジュールがあるが、平成28年度については、予算化されていると思うが、どれくらいの予算をつぎ込むかを教えていただきたい。昨年、我々委員に対して行いたい取組について意見照会があったが、それはどのように反映されているか。スケジュールを見ると地域活動団体・市民にあまり〇がついていない。

(大坪課長)

資料1の5ページに国の動向が記載されているが、上越市が全てに寄り添って取組を行ってきたのではない。市として対応できる、活用できるものについて取組を行ってきた。

平成22年の「医療観光」についてだが、北陸新幹線開業を見据えて市内にある病院を活用できないか、滞在型観光として上越市で人間ドック等を受けるなどの活用を検討した経緯はあるが実現には至っていない。

平成27年の「スノーリゾート地域の活性化に向けた検討会」は、具体的に言うと、スキー産業が衰退傾向にあるので、活性化に向けて取り組んでいくことなどであり、妙高市ほどではないが当市もスキー場を有していることから、検討を進めている。また、「東京オリンピック・パラリンピック」

についても当計画のなかに盛り込んで対応していく。

委員の皆様から頂いた意見については、実現性の高いものを資料3の取組の中に盛り込んだ。地域活動団体・市民について具体的な記載がないところでも、関わりをいただく団体等はあると考えている。

平成28年度の予算については、観光振興課以外の課にも取組がまたがっているものもあり、まだ決定していないのでお答えすることはできない。

(鈴木委員)

「謙信公・聖地（フィールド・ミュージアム）構想」が策定されてからの効果はどうか。また、「ぶらっと春日山・高田号」の状況、「総合博物館」のリニューアルについても教えていただきたい。

(大坪課長)

「謙信公・聖地（フィールド・ミュージアム）構想」についてだが、平成26年に策定され、多くのプロジェクトが掲げられているが、できるところから行っている。最も大きな取組としては、下から本丸が見えるように春日山城跡の杉を伐採し整備したことである。また、QRコードで解説が見られるようにするなどの取組を関係者と協力しながら行っている。さらに食についても関係者が開発に取り組んでいる。

「ぶらっと春日山・高田号」についてだが、一昨年から試行的に行っており、当初、1日の乗車率は6人弱であった。平成27年は3月から11月までの運行し、1日16人弱となった。目標には届かなかったため、乗車人数を増やす取組、また、「ぶらっと春日山・高田号」が必要かどうかの検証を行う。

「総合博物館」については、改修されることしか把握していないが、今後、関係課と連携をとっていきたい。

(田中委員)

資料はわかりやすく、見やすい出来になっているが、内容について現実を踏まえて厳しく考える必要がある。北陸新幹線が開通したことにより、上越

市が素通りのまちならないか危惧している。

第五次観光振興計画の、目玉となる取組があれば教えていただきたい。

(大坪課長)

第四次観光振興計画は、数字的な指標というのがあまりなく、「取り組む」という表現が多くなっていたので、成果を測るのが難しい計画となってしまった。第五次観光振興計画では数字的に評価できる計画としていく。

また、当計画の目玉であるが、資料2「施策の体系」の「3 観光旅行者誘致強化のための重点集客エリアを中心とした周遊形成」というところに最も力を入れていく計画だと考えている。第四次では、上越市の知名度の向上、重点エリアへの誘客を中心に行ってきた。第五次では、重点エリアへ来た観光客を周辺地域へ周遊してもらうように考えている。

(渋谷委員)

重点集客エリアで何をするかそれぞれ記載されており、観光拠点の整備・拡充というような表現になっているが、今後の4年間は具体的に何をするのか。大河ドラマのインパクトは非常に大きいと聞いている。「真田丸」はすぐに始まるので、観光客の受入態勢整備が後手に回らないようにしていかなければならない。観光拠点の整備という漠然としたものではなく各論的なもので何かあれば教えていただきたい。

(大坪課長)

「真田丸」の放送開始にあたり、上越市と真田信繁はゆかりがあるということで、12月からフラッグ掲示などでPRしている。上田市とも連携しキャンペーンなどを行いPRしていく。

また、情報発信が弱いとの指摘もあったので、観光に特化したホームページを今年度末までに公開できるように取り組んでいる。スマートフォンにも対応できるようにし、さらに散策できる機能もつける予定である。

(野口委員)

資料1の5ページ「3. 観光を取り巻く情勢と課題」の「3.」が他と書

式が異なるので修正してもらいたい。

資料2の重点集客エリアについて、「A 高田周辺エリア」の「観桜会を軸とし」とあるが、観桜会は一時期のものでしかなく、観桜会以外の季節はどう考えているか。次に「B 春日山城跡周辺エリア」の「滞在時間を確保できるエリア内の魅力向上を図る」とあるが、春日山城跡周辺に飲食店、カフェ、コンビニがあると滞在時間が長くなると思う。最後に「C 新水族博物館を中心とした日本海沿岸エリア」について、県内にはマリニピア日本海、寺泊水族館もあるので、新水族博物館の独自性を出していくべきである。

(大坪課長)

重点集客エリアについては資料1の73ページから記載している。まず、高田周辺エリアについては、観桜会以外にも寺町、雁木通りなどまち歩きを重点的に進めていく。旅行会社にもまち歩きのツアー商品を造成してもらっている。ボランティアガイドの案内も好評である。城下町高田の風情を生かしていきたい。

春日山城跡周辺の飲食店等については、国の史跡の指定を受けており、開発も限られているので難しいところはあるが、謙信公銅像下の土産物屋が現在改修中であり、民間でできる範囲で行っている。また市としても現在ある施設を紹介していくことに力を入れていくことが重要と考えている。

当市の水族博物館についてはイルカショーが人気を誇っており、新水族博物館整備後は通年でイルカショーを行う計画であると聞いている。やはり他との何らかの差別化なり目玉がないと、集客の継続はできないと考えている。観光として一番重要なのは水族博物館に来て帰ってしまうのではなく、水族博物館に来た方が市内の他の場所へも足を運ぶことである。そのような仕掛けを計画の中に盛り込んでいる。

(平原委員)

通年でPRできるポスター作成し掲示することなどがプロモーションであると思う。気になるのが、毎年、新潟県観光協会が行うキャンペーンで上

越市のPRが弱いところである。観光パンフレットを見てもページ数が少ない。今後は「真田丸」も絡めてPRしていただきたい。ある一定の時期のみでしか使用できないポスターだけでは問題である。通年で使える魅力のあるポスターの作成をお願いしたい。観光施設にとっても助かる、市民にとってもインパクトのあるものになると思う。

(大坪課長)

十分検討しながら行っていく。

(南委員長)

資料1の36ページの「未来訪理由」の部分だが、「見どころがわからない」、「行ってみたい観光スポットがない」の数値が高くなっており、上越市へ行ってみようという気にならないのが問題である。例えば、金沢市であれば兼六園、函館市であれば夜景が目浮かぶといった、行ってみたいと思わせるものが必要である。上越市というとなかなか浮かんでくるものがない。挙げるとすれば春日山は重要な要素である。今回の計画は幅広く93項目の取組を掲げているが、今後予算と効果という部分を事務局に検討していただき、適切な手立てを講じていただきたい。

(3) その他

(4) 閉会

(小林副課長)

検討委員会の開催は、今回をもって最終とさせていただきます。

なお、今後の予定であるが、今月下旬に市議会文教経済常任委員会の所管事務調査において当計画について説明した後、2月1日から3月1日までパブリックコメントを実施する。その際に加筆等あると思うが、本来であれば、委員の皆様から確認いただくところであるが、日程の都合もあるので、計画の確認について南委員長へ一任するという事で委員の皆様から同意いただきたい。

(委員一同)

了承。

(小林副課長)

当計画については年度内の策定完了を予定している。

委員の皆様からは、大変ご多忙の中、4回に渡る会議にご出席いただき、非常に熱心にご議論いただいたことに心より感謝申し上げます。

9 問合せ先

産業観光部観光振興課 TEL : 025-526-5111 (内線 1384、1246)

E-mail : kanko-shinko@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。